

ア
ウ
ト
リ
チ

通信



第29号

2017年3月20日発行
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための

コンサート・シリーズ

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」音楽からの贈り物」(子どものためのコンサート・シリーズ第四十五回)を十二月十日(土)に講堂で開催しました(十一時と十五時半の二回公演、各六十分、来場者計七百八十二名)。

出演は「音楽によるアウトリーチ」一期生の内藤雪子(ピアノ)を中心に、北野真理子(ピアノ)、田中奈津紀(ピアノ)、同二期生)、清水裕子(声楽)、



今年(土)のクリスマス・コンサートには三つの卒業生グループから応募があり、その中から最終的に選ばれての出演です。「音楽からの贈り物」と題されたコンサートは、チェレスタ

独奏による「きよる」のよる」で静かに開幕し、まずはピアノはピアノ

米澤明日香(声楽)の本学卒業生五名と、土井美佳(ヴァイオリン)、大阪音楽大学卒業生)の計六名です。

連弾でオツフェンバック(天国と地獄)序曲を鮮やかに演奏しました。ドイツ語のソプラノ独唱によるリスト(愛の歌)を挟んで、再びピアノ連弾でブラームス(ハンガリー舞曲)第五番を表情豊かに披露します。

ここでピアノ・クイズのコーナーとなり、「金ぴかピアノ」「キラリ型ピアノ」「机型ピアノ」といような形のピ



アノがあることが画像も活用して紹介されました。

続いて、コンプトン作曲の愉快な(チョップステティック変奏曲)を豪快に、また軽快に奏でて満場の拍手喝采を博します。

すると、ヴァイオリンが会場後方から登場してモンテイの(チャールダッシュ)で客席を惹きつけます。ヴァイオリンが登場したところで、ヴァイオリンの弓は何の動物でできているかというクイズも行われました。



次は「みんなで歌いましょう」のコーナーで、マークス作曲(赤鼻のトナカイ)を会場の子どもたちと一緒に歌いました。

改めて演奏に戻って、アンダーソン〈タイプライター〉をみごとにピアノ連弾で披露して、子どもたちは釘付けです。

ここからはクリスマスにふさわしい曲の数々という構成で、讚美歌の〈アメイジング・グレイス〉に続いて、ロッシーニ作曲の〈猫の二重唱〉では、二匹



の猫がクリスマス・プレゼントの大形で張り合った挙句に仲直りするという演出で笑いを誘いました。アンダーソンの〈そりすべり〉がピアノ連弾で鞭も入ってきびきびと奏された後、クリスマスのお話をピアノ演奏と影絵入り

で朗読して、女学院らしいコンサートとなりました。



再び演奏に戻って、ソプラノ二重唱とヴァイオリンとピアノ

で〈オー・ホーリー・ナイト〉をしっかりと聞かせた後、次々に演奏者が加わって、最後は出演者全員で〈クリスマス・パティー・メドレー〉を演奏するという流れで盛り上がります。メドレーでは、〈サンタが街にやってくる〉〈赤鼻のトナカイ〉〈諸人こそぞりて〉〈ひいらぎかざろう〉〈もみの木〉〈ジングル・ベル〉〈ママがサンタにキッスした〉〈ウィ・ウィツシュ・ユー・ア・メリー・クリスマス〉の八

曲が、チェレスタを交えて出演者全員のアンスンブルで次々と披露され、会場の子どもたちも手拍子で参加してコンサートを締め括りました。

卒業後も弛みなく修練を積み重ねてきた成果が存分に発揮された聞き応えのあるコンサートでした。



終演後には恒例の楽器体験コーナーに長蛇の列ができて、子どもたちはヴァイオリンやオルガン、ピアノやトーンチャイム、そして歌に挑戦していました。

会場アンケートではお客様から「インパクトのある曲やゆった

りした曲など緩急があり、大人も子どもも飽きることなくずっと楽しく過ごすことができた」「四歳の子どもが一時間集中して楽しめる内容だった」「演奏者の技術の高さと笑顔に魅了された」「連弾がすばらしかった」「出演者の皆さんが楽しそうで、こちらまで幸せな気分になった」という声が多数寄せられました。また、「案内係の人たちの対応もよかった」「学生さんたちが親切に対応してくれて感謝です。皆さんの将来が楽しみ」といったうれしい声もあつたことを書き添えます。

(アウトリーチ・センター長

津上智美・記)



神戸市立医療センター

十月二十日(木) 十五時から
神戸市立医療センター中央市民
病院(神戸市中央区港島南町二
ー一)一階講堂にて「秋色
音楽会」(四十分)を行いました。

(フルート・金木志織、ピアノ・
上田仁美、作曲・信田亜美、声
楽・高木華奈、塩見友袈、特別
出演ヴァイオリン・園論美医師)。



ー・フォー・ユー」より「アイ・
ガット・リズム」をピアノ連弾

今回は、季節
に合わせて「音
楽で感じる秋」
をテーマとし
ました。オープ
ニングには、ガ
ーシュウイン
作曲《クレイジ

で演奏し、曲中でお客様にも手
拍子で参加して頂きました。次
に、小林秀雄の歌曲《落葉松》
をソプラノで独唱し、紅葉の秋
を感じてもらいました。続いて、
モーツァルトのオペラ《フィガ



ロの結婚》よ
り《手紙の二
重唱》を演奏
し、イタリア
語での二人の

歌の掛け合いに耳を傾けて頂き
ました。オペラならではの芝
居を交えての演奏でした。

次に、動いて「運動の秋」を
感じて頂くために、ピアノ伴奏
で皆さんと
一緒に《あ
んたがたど
こさ》をし
ました。「あ
んたがたど
こさ」の



「さ」で手を叩いたり歌ったり

しました。次にジョン・ニュー
トン作詞《アメイジング・グレ
イス》をピアノ、フルートと声
楽で演奏しました。

ここで病院医師の園論美先生
がヴァイオリンを手にドレス姿
で登場。エルガー作曲《愛の挨拶》
をピアノとフルートとヴァ



イオリンの
アンサンブル
で演奏しま
した。訪
問先のお医
者様と一緒
に演奏する

のは、私たちにとっても初めて
の試みです。普段、病院では見
ることのできない園先生のドレ
ス姿にお客様も目を細めていら
っしゃいました。

続いて、信田亜美編曲の秋メ
ドレーを演奏。ヴィヴァルディ
の《四季》から《秋》にのせて、
《紅葉》《まっかな秋》《里の秋》



《どんぐ
りころこ
ろ》の四つ
の童謡を
メドレー
に仕立て
たもので
す。最後に、

やなせたかし作詞・いずみたく
作曲《手のひらを太陽に》を皆
様と一緒に歌いました。

アンコールに、美空ひばりの
《川の流れるように》をこれも
会場の皆様と一緒に歌いました。
演奏中、手拍子をしたり一緒
に口ずさんで下さったりする方
も多く、こちらまで元気を頂け
る演奏会になりました。

(塩見友袈・記)



十一月五日(土) 十三時四十分から社団法人佳生会野木病院(明石市魚住町長坂寺一〇〇三ー一)で「オータム・コンサート」愛のリズミック(四分五十分)を行いました。(ソプラノ・塩見友袈、フルート・金木志織、ヴィオラ・増田佳子、ピアノ・池上夏帆、上田仁美、中まゆり、編曲とピアノ・信田亜美)

テーマは「愛のリズミック」。リズミックとはミュージックとリズムという言葉を掛け合わせてひとつの言葉にした私たちの造語です。このコンサートを通して、さまざまな種類のリズムがあることをお伝えできればという思いを胸にプログラムを創り上げました。

まずは、エルガー作曲(愛の挨拶)(フルート、ヴィオラ、ピ



アノ)のアンサンブル演奏で開演しました。続いて、モーツアルト作曲(きらきら星変奏曲)をフルートと

ピアノで演奏して、フルートの楽器紹介を行いました。

ここで、服部正作曲(ラジオ体操第一)(ピアノ)をBGMに、皆さんと腕や肩を回して身体をほぐしていききました。会場の雰囲気や和んだところで、中村八大作曲(上を向いて歩こう)を皆様と一緒に歌いました。

ドビュッシー作曲《小組曲》より(バレエ)(ピアノ連弾)は、軽やかなリズムやゆったりとしたリズムなど



たくさんあり、最後は華やかに結ばれる曲なので、演奏時の顔の表情や手の動きにも工夫を凝らしました。

次に、あたたかくも切ない曲である小林秀雄作曲(落葉松)(ソプラノ、ピアノ)を演奏しました。会場の皆さんも聴きながらその情景



を思い浮かべてくれている様子でした。ドヴォルザーク作曲(ユー

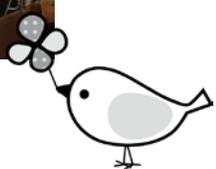
ーモレスク)(ヴィオラ、ピアノ)でヴィオラの楽器紹介を行なったあと、ガーシュウインの《クレイジー・フォー・ユー》より(アイ・ガット・リズム)(ピアノ連弾)を演奏しました。今までの曲とは雰囲気や異なり、ジャズの要素が詰まった曲だったので、手拍子と共に盛り上がりました。そのあと信田亜美編曲

(秋のメドレー)と岡野貞一作曲(ふるさと)を皆さんと一緒に歌って、会場が一つになったように感じることでできる瞬間を味わいました。

皆さんのあたたかい雰囲気は私たちにとても心地よかったです。本当にありがとうございました。



(池上夏帆・記)



兵庫中央病院

十一月十七日（木）十四時から国立病院機構兵庫中央病院（三田市大原一三二四）のロビーにて「歌って感じる秋 オータム・コンサート」（四十五分）を行いました（声楽・荒木この美、塩見友架、高木華奈、ピアノ・森口真美、フルート・金木志織、編曲・信田亜美）。

今回は出演者に声楽専攻が多かったので、秋にちなんだ童謡をたくさん盛り込んで皆さんと秋を感じようと、歌がメインのプログラム構成にしました。



まず、ヴィヴァルディ作曲《四季》より〈秋〉（ピアノ）を演奏した後、ジョン・ニュートン作詞（アメリ



イジング・グレイス）（フルート、声楽、ピアノ）をアンサンブルで演奏しました。

ここからは

日本の童謡で秋を感じるべく、山田耕筰（赤とんぼ）、中田喜直（ちいさい秋みつけた）を会場の皆さんと一緒に歌いました。

曲を知っている人が多く、お客様との距離が近くなったと実感しました。元気が出てきたところで、次は体を動かそうと、わらべうた（あんたがたどこさ）を歌いながらリズム遊びをしました。動きがむずかしくなっていくに従って、次第に必死感がお客様の中に伝わりつつ、会場に笑顔が増えていきました。

次に、小林秀雄作曲（落葉松）（声楽、ピアノ）をしつとりと聴いて頂きました。ここで雰囲気



気を変えて、モーツアルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》より〈手紙の二重唱〉です。クラシックも組み込んでみると、新鮮で楽しんでいる人もいれば、中にはあまりなじみがなさそうな人もいました。



この秋のコンサートのために編曲された〈秋のスペシャル・メドレー〉（信田亜美編曲）を出演者全員で演奏し、会場の皆さんも一緒に歌で参加してくれました。よく知られた秋の童謡ばかりでしたので、

歌いながらさらに秋を感じることにできたと思います。最後に、岡野貞一作曲〈ふるさと〉を会場の皆さんと

歌いました。懐かしさのあまりか、涙を流している人も見受けられました。

アンコールとして美空ひばりのヒット曲〈川の流れるように〉を演奏しました。「懐かしい曲が多くてうれしかった」という声を何人もの方から頂いて、私たちもうれしく思いました。

（金木志織・記）



鳴尾北幼稚園

十二月六日(火)十一時から西宮市立鳴尾北幼稚園(西宮市花園町十一二十、園長・河崎祥子先生)遊戯室にて園児を対象とする「クリスマス・コンサート」(四十分)を行いました。(声楽・塩見友袈、糸田麻里絵、フルート・金木志織、ピアノ・松本祐佳、金丸史奈)。

「季節にぴったりのクリスマス」の曲を通して、音楽を聴いて、歌って、触れよ



う!」をテーマとして、ソロ曲やデュオ曲、アンサンブル曲を多く取り入れ、楽器の音色の違いを知ってもらえるようにプログラムを考えました。

まず、モーツアルト作曲(ヘトルコ行進曲)で元気よくコンサ

ートを始めました。続いて、同じくモーツアルト作曲(きらきら星変奏曲)をフルートで演奏

しました。聴きなじみのある曲で、園児たちは口ずさんで聴いてくれました。次に声楽の独唱でシューベルト作曲(笑いと涙)

をドイツ語で歌いました。なじみのないドイツ語での歌唱でしたが、笑顔や泣き顔のジェスチャーをつけて演奏したので、園児たちも集中して聴いてくれました。続いて、ピエール・ルイギ作曲(バラ色の人生)を日本語で独唱しました。甘い歌声に園児たちもうっとりして聴いている様子でした。出演者のソロ

曲が出揃っ

たところで、

ソロとアン

サンブルと

の違いを説

明し、ハロ

ルド・アー



に聴いてくれました。

アクティビ

ティとして小

林亜星作曲(あ

わてんぼうの

サンタクロー

ス)の歌詞に皆

で振付を考え

て、歌って動いて遊びました。

園児たちが考えてくれた振り

事前私たちが考えていた振り

とを取り混ぜ、少しむずかしい

振りにもチャレンジしました。

皆とても元気よく、楽しそうに

体を動かしてくれたので、うれ

しかったです。



レン作曲(虹のかなたに)をアンサンブルで演奏しました。曲の構造を先に説明することで園児たちは熱心

後半からは季節に合ったクリ

スマスの曲として、フレッド・

クーツ作曲(サンタが街にやつ

てくる)を日本語と英語で二重

唱しました。息がぴったり合っ

た二重唱に園児たちは聴き入っ

ていました。最後はジョニー・

マークス作曲(赤鼻のトナカイ)、

ピア・ポント作曲(ジングル・

ベル)、いずみたく作曲(手のひ

らを太陽に)を皆で歌い、クリ

スマス・コンサートの楽しい締

めくくりとしました。

幼稚園でのアウトリーチは今

回で二度目ですが、幼稚園によ

って雰囲気や園児の様子はそれ

ぞれ異なり、戸惑いもありまし

た。でも、その戸惑いをも楽し

んで、音楽を通して子どもたち

と楽しく触れ合うことができました。

した。

(金丸史奈・記)

雲雀丘学園小学校

十二月九日（金）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四の二の一）音楽室で、四年生の四クラスを対象としたアウトリーチ実習（各四十五分）を行いました（ピアノ・池上夏帆、中まゆり、信田亜美、上田仁美、声楽・塩見友袈、高木華奈、ヴィオラ・増田佳子）。

「天才！？神の子！？聴いて学ぼう、モーツァルト！」をテーマに、モーツァルトについての豆知識を作品の演奏に織り交ぜたプログラムを行いました。

最初に、各人の身長と性格を含めて出演者を紹介し、児童に



親近感を持ってもらえるように工夫しました。

まず、オペラ《フィガロの

結婚》より《序曲》をピアノ連弾で演奏し、モーツァルトとはどんな人なのかを話しました。

モーツァルトの身長などのクイズを出して、フロアとのコミュニケーションを図りました。

同じく《フィガロの結婚》よ



り《手紙の二重唱》を振りつきで演奏した後、モーツァルトも変奏曲に取り上げたフランス民謡《きらきら星》を用いて、児童と一緒に合奏をしました。子どもたちは一生懸命にリズムを考え、旋律を練習して参加してくれました。

《バターつきパン》をピアノ独奏で、《交響曲第四十番》第一楽章をピアノ連弾で演奏し、幼少期と晩年のモーツァルトの作品を通してピアノの奏法につい



て説明しました。

次に《アヴェ・ヴェ・ヴェルム・コルプス》（声楽二重唱＋ヴ

イオラ）を演奏しました。二、三時間目には、音楽教諭の岡村圭一郎先生もバリトンで参加して下さったので、三重唱＋ヴィオラのスペシャール・バージョンになりました。



児童はいつもの先生とは違う姿を見て、新鮮に感じたようです。

最後はクリスマス・シーズンにふさわしく、《きよしこの夜》《ジングル・ベル》《赤鼻のトナカイ》を全員で歌いました。

プログラムの構成の練り直しなど、当日に至るまで様々な苦労がありました。その苦労を皆で乗り越え、本番はスムーズに演奏することができました。四クラスそれぞれに特徴があり、私たちも楽しく演奏することができました。今回の授業はこれからの私たちの演奏活動に役立つものとなりました。



（信田亜美・記）



子どものための
音楽作りワークショップ

九月二十四日(土) 九時半から十六時まで、第七回「音で遊ぼう!子どものための音楽作りワークショップ」を本学音楽館ホールで開催しました。参加は学生十二名、卒業生二名、学外者二名、子ども二十九名(小学生七名、中学生八名、高校生七名、四年生二名)の計四十五名でした。これは英国ギルドホール音楽院で培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れたプログラムに学ぶ形で二〇〇七年にスタートしたもので、今回が七回目です。

同校リーダーシップ修士課程を修了後、世界で活躍する音楽家二名(アメリカ人のチェロ奏者ナターシャ・ジエラジンスキとイギリス人のフルート奏者デ

ッタ・ダンフォード)を日本に招聘し、本学卒業生で同課程修了の東瑛子もリーダーとして参加して、九月二十日から五日間、学生対象の「音楽作りワークショップ特別研修」を行い、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちの参加を得て実施したものです。

この研修は「三大学(本学音楽学部、東京音楽大学、昭和音楽大学)連携」に発するプロジェクトの一環で、誰もが持っているクリエイティブな力を引き出し、共に音楽を生み出していくために必要な視点と方法を学んで実践力を身につけることを

目的としています。

今年のワークショップ研

修は葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」



を素材として、各グループがそれぞれ一枚の浮世絵からお話や情景や音を思い浮かべて旋律やリズムを構想し、組み立てていくという方法で進められました。



当日はアイスブレイクも学生

たちに任されて、自分たちで考案したワークをリードして充実感を味わうことができました。

次に、四グループに分かれて、各々浮世絵に基づいた歌や曲を考案しました。それらを互いに披露し合った後、四つを組み合わせて三十分ほどの曲にまとめ、お迎えの保護者の前で披露しました。

保護者アンケートでは「初め

て発表会を拝見して、レベルの高さに驚きました。先生方や学生たちの指導のお蔭で、一日で



音楽づくりが子どもたちもできるなんてすばらしいと思いました。子どもには生まれもって、

音で自由に表現する力があると教えられました」といった声が寄せられました。

当日は、外国人講師と日本人参加者とを結ぶべく、大学院文学研究科通訳コースの院生が逐次通訳でサポートしてくれたことを記して感謝します。

(津上智実・記)



履修生紹介

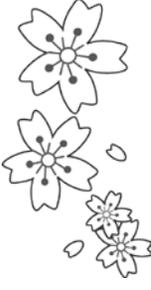
四年生(十四期生八名)からの

メッセージ

荒木 この美(声楽)



ホールでのコンサートが、お客様に自分の声や音楽を「魅せる」場としたら、アウトリーチは、音楽というツールによって自分と聴いて下さる方とのコミュニケーションを生み出す場なのだとは考えます。音楽を通して聴いて下さる方一人一人と繋がろうとする私の強い思いは、気がつくたびに、音楽を通して人間の強さも弱さも、そして生きる力をも教えてくれました。通常のコンサートとは違い、音楽面だけでなく人間としても成長させてくれるアウトリーチは、私にとってかけがえのないものであり、人生の糧となりました。



池上 夏帆(ピアノ)



三回生の「音楽によるアウトリーチ(講義)」受講時に、「演奏家」よりも「パフォーマー」でありたいという目標を自分の中で定めていました。この目標達成のため、仲間にもリハーサルや合わせの時間等で助けてもらいました。「魅せる」ことは演奏中に限らず話す際にも必要で、私にとってむしろ楽しい分野で苦労しましたが、この経験があれば演奏する全ての場面で「魅せる」ということを意識しなかったのではないかと言っても過言ではありません。ぜひ先輩にもアウトリーチの授業を通じて自分自身の糧となるものを得てもらいたいです。

金木 志織(フルート)



アウトリーチの授業に興味があったので、入学したので、少しでも自分の身になるように可能な限り参加しました。数多くの実習に参加することで、場所それぞれで求められるものが違い、臨機応変な対応をできるかどうかが重要だと学びました。音を奏でるにも、どんな音色を聴かせたいのかで、と

ても悩みました。何よりも音楽を心から楽しむことのすばらしさに改めて気づかされました。曲数をこなしたり、司会などやることが多く大変ですが、確実に自分のためになります。私は心の底から履修してよかったと思います。

森口 真美(ピアノ)



アウトリーチの実習を通して、コンサートを一から考えて作り上げる大変さを学びました。自分だけでなく、相手の立場になって客観的に物事を見ることは非常に大切です。聴いて下さった皆様が、私たちの演奏で笑顔になったり涙を流したりしている姿を見ると、何か一つでも伝わったものがあるのだなと音楽の力を改めて感じます。この経験を活かして、今後も様々なアウトリーチ活動を行いたいです。音楽的にも人間的にも成長できる貴重な授業なので、ぜひ皆さんにも履修してほしいと思います。

中 まゆり(ピアノ)



この授業を振り返り、思い出すのは履修同士で考えを出し合い、役割を持って協力し合った時間です。私たちはまず聴いて頂く方々の年齢層や状況をふまえ、「どうしたら楽しんでもらえるかなあ」と伝え方やプログラムを模索していきました。その中で、それぞれの意見がうまく組み合わせられ、一人では思いもしないようなアイデアが生まれたりします。そんな風に試行錯誤して届けるアウトリーチは、音楽を私たちに伝えることができる場でもありました。大変でしたが、ここでしか得られない経験で溢れ、履修してよかったなと思います。

塩見 友袈(声楽)



アウトリーチ実習を履修してみると、思ったよりもハードで苦しい時もありました。しかし訪問先の園児や患者さんたちの笑顔や、あたたかい言葉をたくさん頂き、演奏者である私たちが元気になる授業でした。



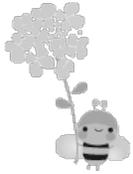
普段の演奏ではあまり意識しない多くのことを、この授業では学ぶことができました。私は幼稚園、病院、小学校と数多くのアウトリーチに参加して、改めて音楽のすばらしさや、人と人の心を繋ぐことのできるツールであることを再認識しました。この授業で学び得たものを今後の人生でも生かしていきたいです。

高木 華奈 (音楽)



私は、アウトリーチが何かも分からず、病院や学校など学外で演奏ができて、自分のスキルアップ

ができればいいなという想いで履修しました。四回生になると実習が始まり、まさかの七夕コンサートではリーダーになって、舞台進行表や人間関係など本当に大変でしたが、達成感は大きく、病院や学校など学外にもたくさん行かせて頂き、演奏だけでなくお話の大切さなど、演奏家として生きていく上で大切なことを学ぶことができました。履修するか迷っている人はぜひ！必ず充実した学生生活が送れます！



上田 仁美 (ピアノ)



私にとってアウトリーチは、「音楽をどのように伝えるか」を考えさせられる貴重な時間でした。どのようなプログラムにすれば、どのような演奏をすれば、私たちの伝えたい「音楽」を届けられるのか、真剣に悩みました。大変なこともたくさんあったけれど、それ以上に得るものがありました。演奏しに行くたびに、言葉では表せないほどの思いが溢れ出るのです。音楽の力の凄さを感じるのです。これは実際に自分が経験しなければ感じることはできないと思います。ぜひみなさんにもこの感情、そして音楽のすばらしさを実感してほしいと思います。

私にとつてアウトリーチは、「音楽をどのように伝えるか」を考えさせられる貴重な時間でした。どのようなプログラムにすれば、どのような演奏をすれば、私たちの伝えたい「音楽」を届けられるのか、真剣に悩みました。大変なこともたくさんあったけれど、それ以上に得るものがありました。演奏しに行くたびに、言葉では表せないほどの思いが溢れ出るのです。音楽の力の凄さを感じるのです。これは実際に自分が経験しなければ感じることはできないと思います。ぜひみなさんにもこの感情、そして音楽のすばらしさを実感してほしいと思います。



金丸 史奈 (ピアノ)



音楽をただ一方的に演奏するのではなく、音楽の中で実習先の方々に同様に同じ気持ちで同じ時間を共有するか、そのために実習先ではどんな音楽が求められているかを考え、何度も練習を重ねて本番に臨みました。実習を重ねるごとに視野も広がり、もっとよいコンサートにしようという音楽と向き合うようになりました。実習先の方々の笑顔を見るたびに、音楽で繋がることのできる喜びを実感しました。大変なことはもちろんありますが、それ以上に得るものが多い、音楽的にも人間的にもたくさんの引き出しを増やしてくれる授業です。

音楽をただ一方的に演奏するのではなく、音楽の中で実習先の方々に同様に同じ気持ちで同じ時間を共有するか、そのために実習先ではどんな音楽が求められているかを考え、何度も練習を重ねて本番に臨みました。実習を重ねるごとに視野も広がり、もっとよいコンサートにしようという音楽と向き合うようになりました。実習先の方々の笑顔を見るたびに、音楽で繋がることのできる喜びを実感しました。大変なことはもちろんありますが、それ以上に得るものが多い、音楽的にも人間的にもたくさんの引き出しを増やしてくれる授業です。

聴講生紹介

信田 亜美 (作曲)



いろんな場所、音楽を様々な人と共有することができる！音楽を通して多く

の人を幸せな気持ちにすることが出来る！という単純な気持ちでこの授業に参加することを決めまし

増田 佳子 (ヴァイオリン)



アウトリーチという授業を通して、私は「音楽の力」を考えることができました。音

楽には時によって様々な感情にさせる力があります。そんな音楽の力をこの社会で活かすためには何が必要で何ができるかを学び、その上で私は記憶に残る演奏がしたい、愛する音楽を届け、一人一人の心に音の花を咲かせたいと思います。それには音楽を表現し魅せるということ、いかなる時も一方通行ではなく客観的に自分をも見つめ、周りに目を向けて心を通わせる必要があると実感しました。皆さんもこの授業を通して多くの出会いを大切に、音楽を届けてください。

た。その思いの通り、実習はとても楽しく、多くの人と音楽でつながることができました。練習やプログラム構成を考える中で、音楽に対する考え方も変わっていきました。音楽構成やバックグラウンド、演奏だけでなく話し方や立ち居振る舞い、すべてを実習を通して学ぶことができました。一人では見つけることのできない音楽性を身につけることができます。ぜひ皆さんにも履修してもらいたいです。

田中 奈津紀さん(二期生)



アウトリーチを改めて学
び直したい
という思い
から、聴講生
登録をして参加
しました。履修生の活動を通じて、
アウトリーチについて多くの新し
い視点を得ることができ、可能性が
無限にあることを実感しました。学
生の切磋琢磨する姿から伝わって
きたのは、音楽を介して相手(聴き
手)に寄り添いたいという思いの強
さです。その真摯な姿勢がさまざま
な演出や工夫に表われ、どのコンサ
ートも学生それぞれの個性が溢れ
たすばらしいものでした。聴き手の
笑顔や言葉を力に、これからも益々
活躍してほしいと思います。一年間
ありがとうございました。

「音楽によるアウトリーチ(講義)」

履修生(三回生十四名)

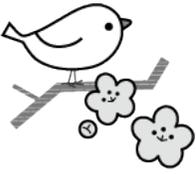
ピアノ

城ヶ崎彩佳、金子亜美、松本祐佳
三谷彩矢香、永田真由子、太田春菜
笹川まき子、渡部里紗、山下記代

声楽

糸田麻里絵、高橋輝、種村ひかり
唐津理央、上野緑

聴講生 山口美加子(総合文化学科
四年生)



谷田 奈央さん(五期生)

アウトリーチ要員からの
メッセージ



アウトリ
ーチ要員と
して二年目
のシーズン

が終わろうとしています。今年の
四回生は改善点もしっかり指摘し
合える、信頼関係のできたすばら
しい学年でした。自分の出演しな
い実習でも、仲間の実習リハーサ
ルから自分への「気づき」を多く
吸収していたように思います。私
自身も学生たちの取り組みから学
ぶことが多く、毎週楽しみに岡田
山へ向かっておりました。

卒業後それぞれの道へ進む彼女
たちですが、演奏はもちろん、お
話の仕方や一つの公演に取り組み
姿勢など、アウトリーチでの経験
がこれからの新生活で役立つ時が
必ずあると思います。

次号の予告

「子どものためのコンサート・
シリーズ」開設十五周年記念「子
どものためのスペシャル・コンサ
ート」室内オーケストラで聴く動
物と音楽」を二月二十五日(土)
十四時から講堂で開催しました。
指揮ザビエル・ラック、演奏「十
五周年記念スペシャル室内オーケ
ストラ」で、ビゼー《カルメン》
間奏曲、サン＝サーンス《動物の
謝肉祭》、プロコフィエフ《ピータ
ーと狼》を演奏し、最後に会場の
子どもたちと一緒に《山の音楽家》
を歌いました。「アンサンブルくれ
よん」によるアクティビティ、動
物の折紙(制作は英文科の立石浩
一先生)の映写、ナレーションを
交えての公演で、多くのお客様を
お迎えしました。その模様は次号
の『アウトリーチ通信』で報告し
ますので、どうぞご期待下さい。

2016年度 実習歴

- 6月 2日 (木) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
7月 2日 (土) 子どものための七夕コンサート(シリーズ第 44 回)
9月24日 (土) 第7回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」
10月20日 (木) 神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ
11月 5日 (土) 野木病院アウトリーチ
11月17日 (木) 国立病院機構 兵庫中央病院アウトリーチ
12月 6日 (火) 西宮市立鳴尾北幼稚園アウトリーチ
12月 9日 (金) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ
12月10日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 45 回)
2月25日 (土) 子どものためのスペシャル・コンサート(シリーズ第 46 回)
3月 6日 (火) 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センターアウトリーチ
3月 9日 (木) 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一步踏み出すこと」「手をさしのべること」。
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪**小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪**病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

「音楽によるアウトリーチ」が開講されて15年、記念の年となりました！（寺澤）
行事が盛り沢山な1年でした。卒業生の皆さんのご活躍を祈っております♪（森）
たくさんの方に支えて頂いた1年でした。来年度も学生と一緒にがんばります！（増田）
今年の4年生は互いに助け合ってとてもよいチームワークでした。その力をこれからも大切に！（津上）